

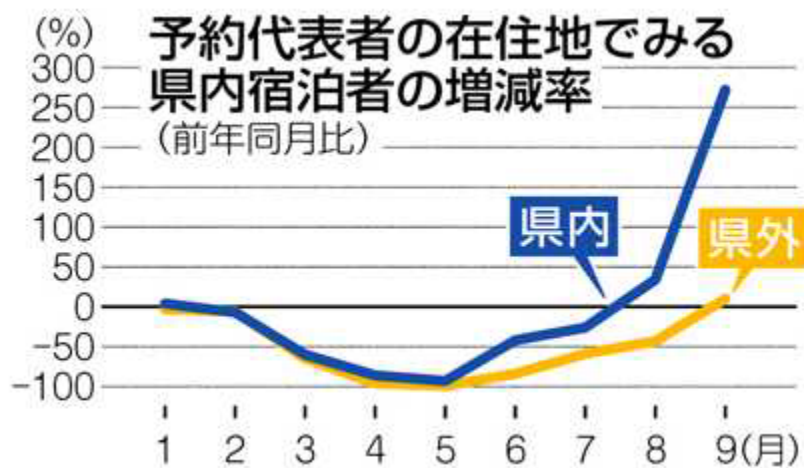
県内宿泊者数 9月今年初増

新型コロナウイルス感染拡大が経済に与える影響の分析に役立ててもらおうと、内閣府が都道府県別のビッグデータを公開しているサイト「V-RESAS」で、県内の宿泊者数の推移を見られる。

緊急事態宣言が出ていた四月は前年同月比96%減、五月は99%減と壊滅的だったが、七月以降、持ち直しの動きが鮮明になった。九月は四連休が天候に恵まれたこともあり、19%増と今年初のプラス。とりわけ予約代表者が県内在住だと三・七倍となった。

旅行に行きたいが、県外は行きづらい気持ちがあったところ、七月からの国の「Go Toキャンペーン」や県のみえ旅プレミアム旅行券発行、各宿泊施設の県民限定プランが効果を発揮したようだ。九月は県が近隣県民も対象にクーポンを発行したためか、県外在住の予約代表者も10%増と勢いを取り戻している。三重は県外からの宿泊者の割合が比較的高く、影響は大きい。ただ、国や県の予算はいつまでも続くわけではない。継続的な需要を生み出すにはもう一回来たいと思ってもらえるよう、事業者も受け入れ環境の整備に努める必要があるだろう。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む (百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2020年11月5日